

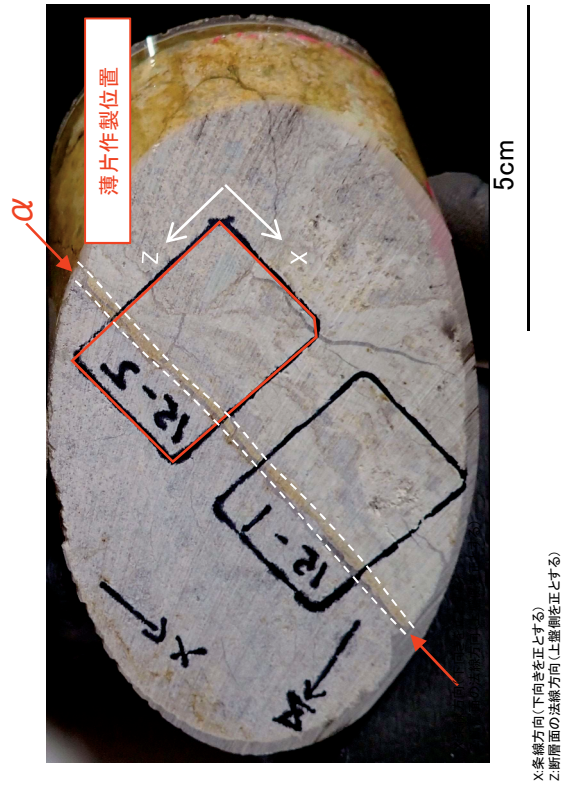
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 α は最新活動面

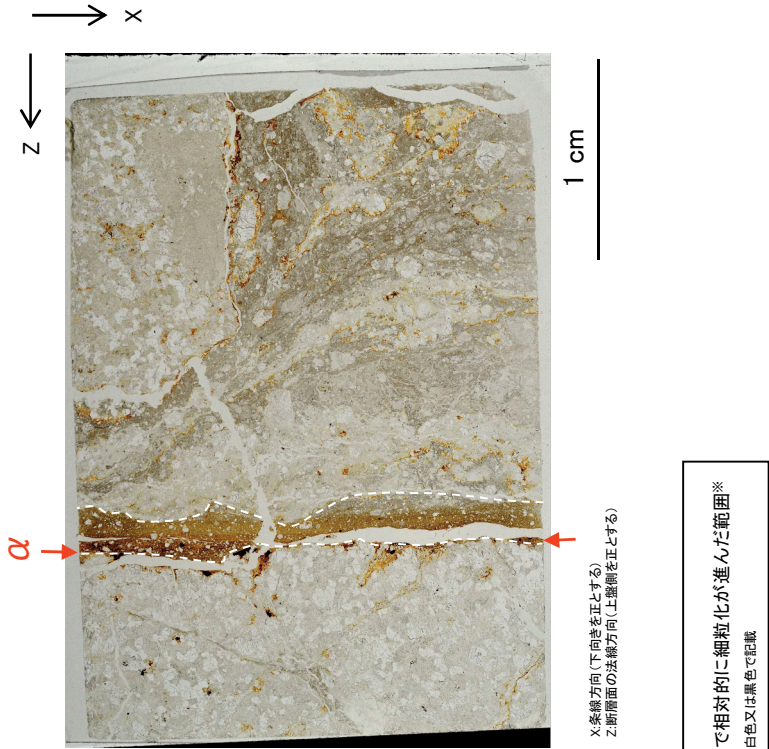
コア写真



薄片作製位置写真



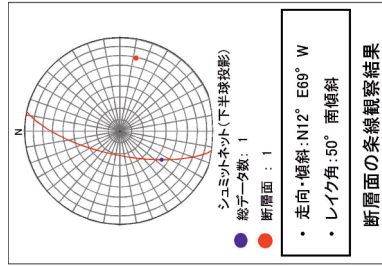
薄片全景写真(単ニコル)



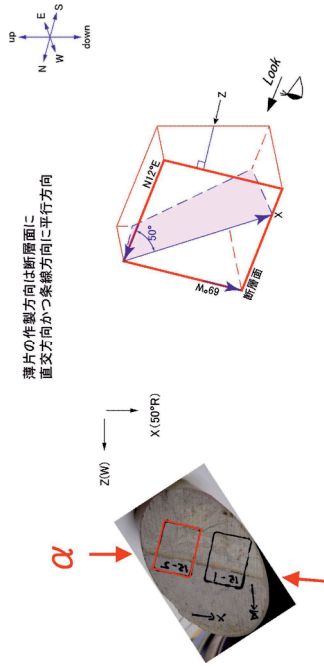
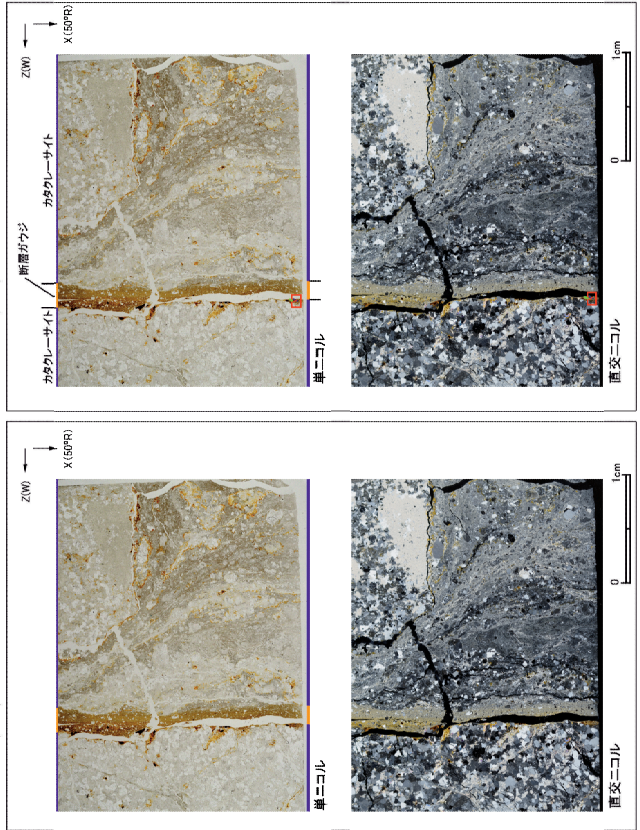
第7.4.4.364図 (3) 破碎部性状 H31-R-2' 深度9.92~11.01m (薄片作製位置)

- ▶ H31-R-2' のボーリンググコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位セシスは、左ずれを伴う正断層である。
- ▶ 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。

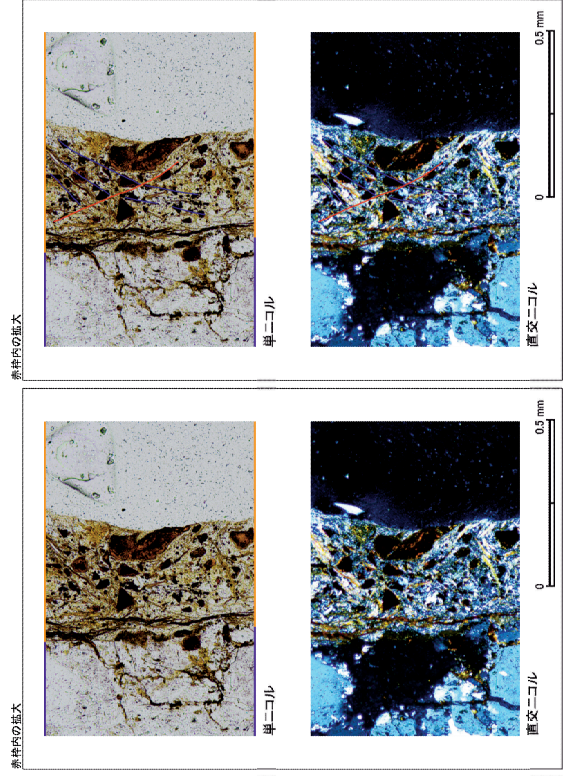
※断層面 α は最新活動面



断層面の条線観察結果

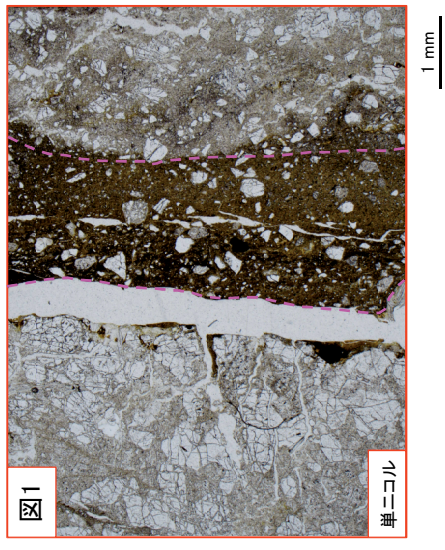
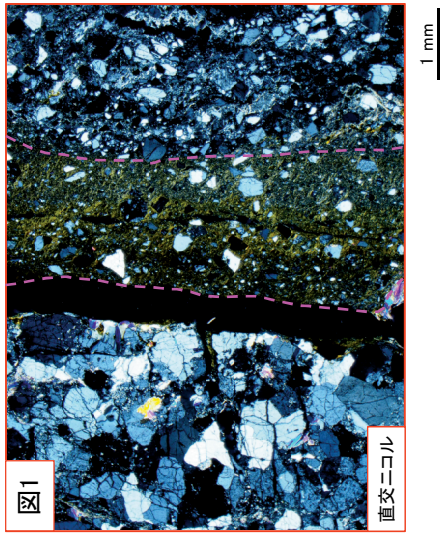


ブロックサンプル
 0 10cm

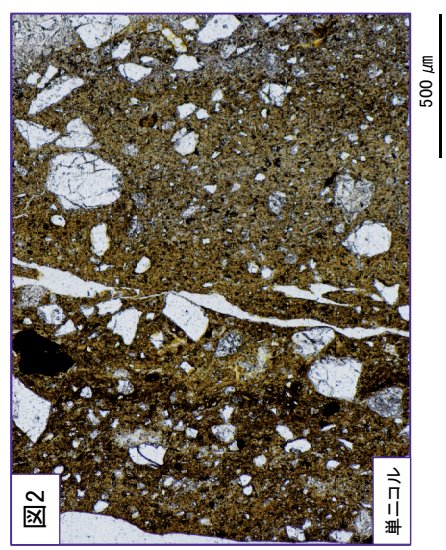
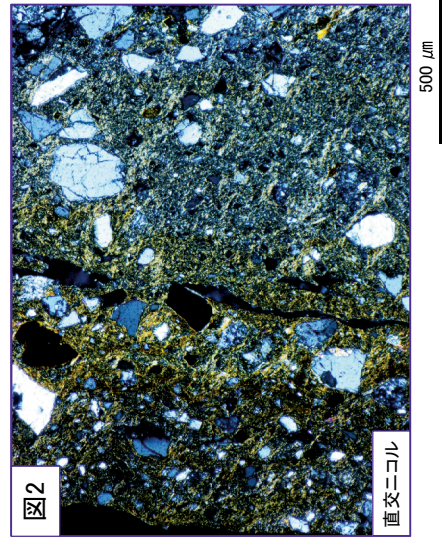
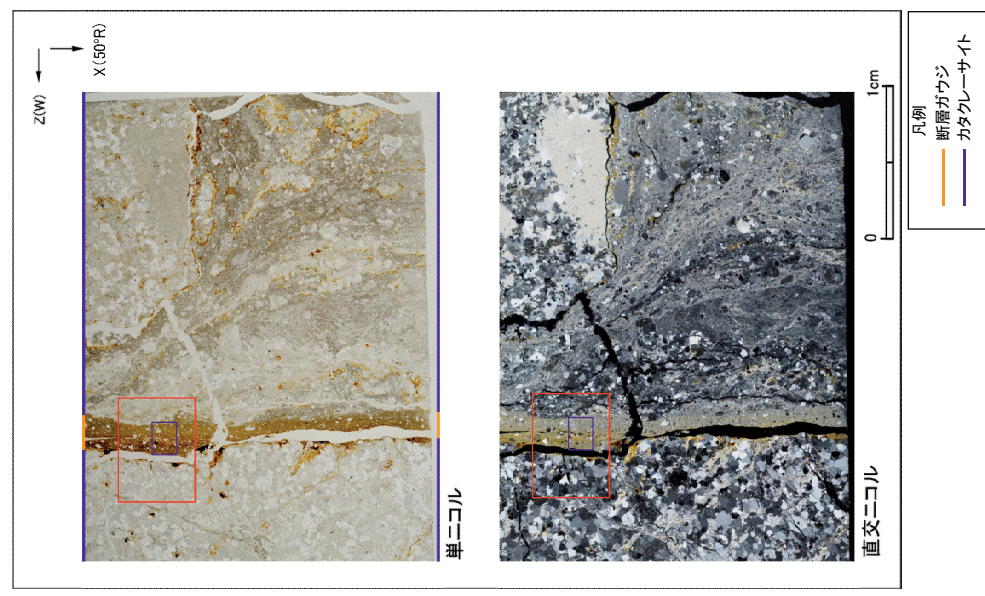


凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト
R1面
P面
非対称変形構造

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図2)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す



(肉眼観察結果 深度10.70m)

- 深度10.70mには淡橙色粘土を挟在している。粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴は認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された淡橙色粘土は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.4	無

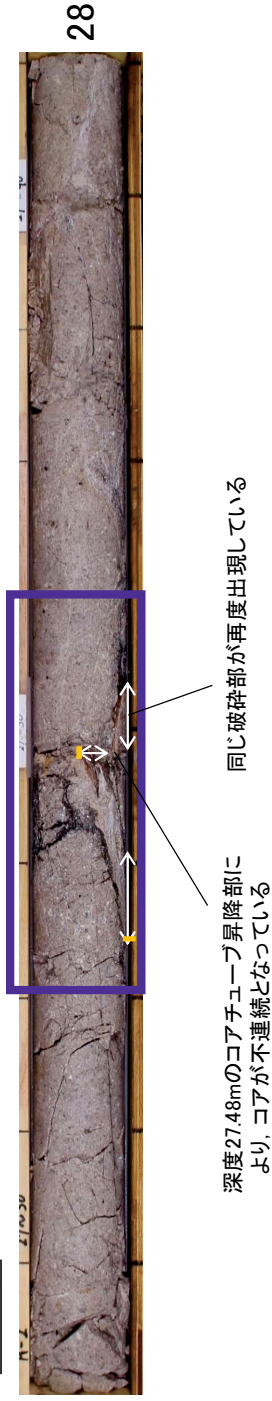
*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「ー」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度27.43～27.44mの「灰白色粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度27.44～27.48mの「粘土混じり角礫質砂状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサーサイトであると判断した。
- ・深度27.48mには「明赤灰色粘土」を挟んでいる。粘土は軟質で、直線的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、連続性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサーサイト中の粘土脈であると判断した。

ボーリング柱状図

● 27.43～27.48m：破砕部
 27.43～27.44m：灰白色粘土状部(Hc-1)。幅3mm程度で軟質。上端69°で直線的。
 27.44～27.48m：粘土混じり角礫質砂状部(Hb)。やや軟質であるが、原岩組織は残留する。灰白色を呈する。幅15mm。下端に傾斜74°で幅0.5mmの明赤灰色粘土を伴う。

コア写真



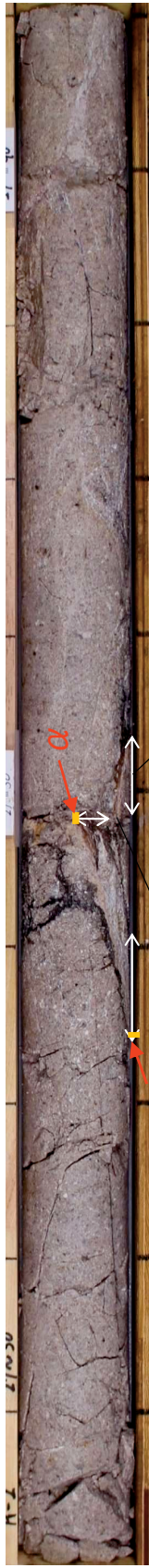
灰白色粘土の連続性・直線性が良い



・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面 α は最新活動面



27

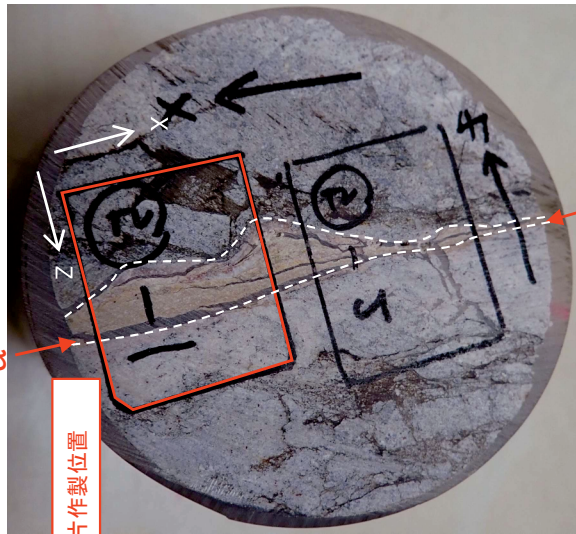
28

深度27.48mのコアチューブ昇降部により、コアが不連続となっている

同じ破砕部が再度出現している



薄片作製位置写真

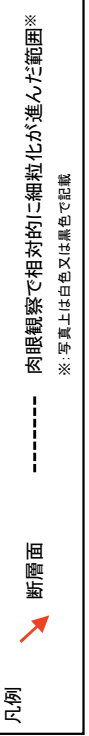


薄片作製位置

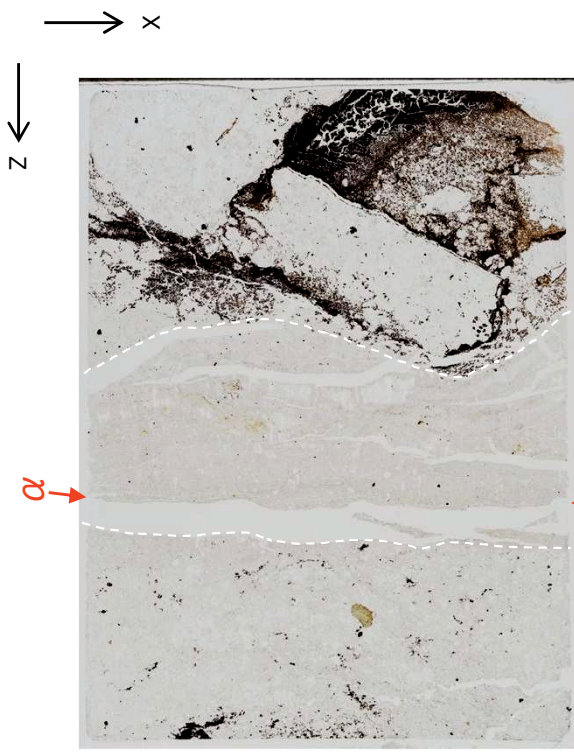
切断面に記載されているX、Z方向は誤り
鏡面反転写真

X: 糸線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

5cm



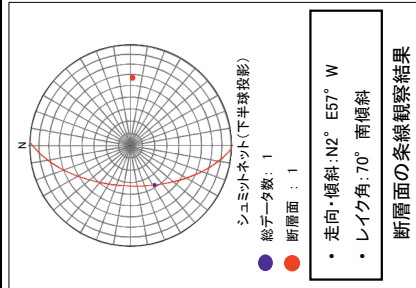
薄片全景写真(単ニコル)



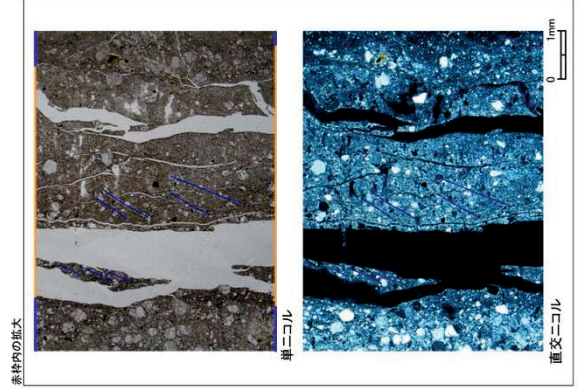
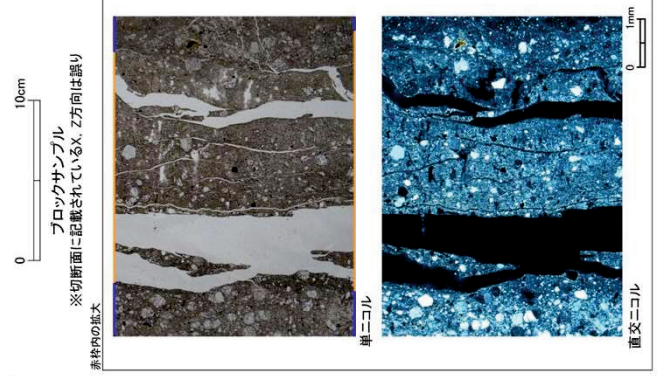
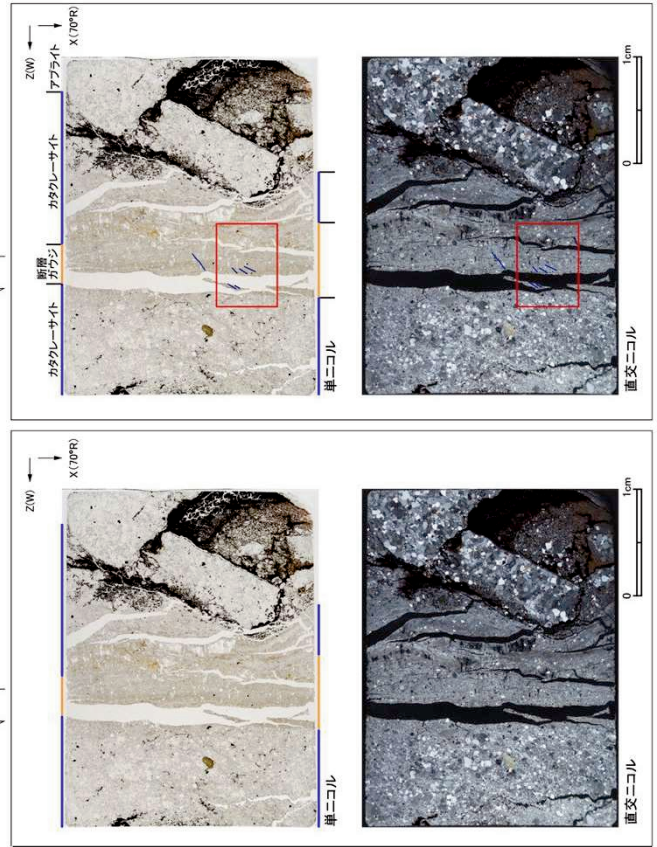
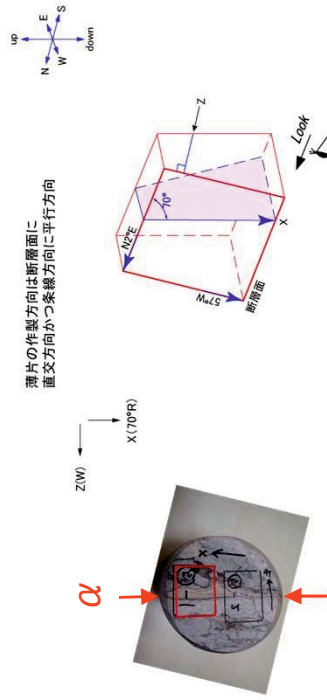
X: 糸線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

1 cm

- ・H31-R-2' のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は連続的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。



※断層面 α は最新活動面



凡例

断層ガウジ	断層角礫	カタクレーサイト	R1面	P面
—	—	—	—	—